

平成28年度宇都宮市立豊郷中央小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

「人間尊重の精神」を基盤に、激しい変化が予想される21世紀社会の担い手として、「心身ともに健康で、主体的に考え表現でき、ねばり強く頑張りぬき、自らの向上とよりよい社会の発展を目指し、たくましく生きる人間」の育成を図る。

『かしこく』 進んで学びよく考える子ども（基礎学力を身につけ、自ら考え進んで学習する。）

『なかよく』 思いやりがあり心豊かな子ども（相手の気持ちを考え、だれとでも仲よくする。）

『たくましく』 元気でがんばる子ども（心身ともに健康で、粘り強く活動する。）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「子どもの笑顔と活気があり地域に開かれた信頼される学校」

子どもの健やかな成長のためには、学校生活の中で、学習がよく分かる喜び、自分の役割が分かり居場所のある喜び、友達や先生と心が通い合う喜びを味わわせることが大切であると考えます。

そのためには、教職員一人一人が組織の一員としての自覚をもち、互いを思いやり、居がいのある職場の中で学校目標達成に向けて同僚性を発揮していくことが望まれる。まず大切にしたいのは「わかる喜び」を実感させることができる指導力を身に付けるということである。子どもの学力を育て、心を育てることができる教師でありたい。さらに、保護者や地域への時機を得た発信と共通理解の下での連携を推進し、地域に根ざした教育活動を展開することが大切である。その結果、子ども一人一人の中に自己実現の喜びや自己肯定感などが生まれ、子どもの笑顔が輝く学校となっていくことを目指したい。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 「感謝の心」の育成を重点に、全教育活動を通して、豊かな心の教育を推進する。また、豊かな心の育成と関連を図りながら積極的児童指導を推進する。
- (2) 相手を思いやり、相手の考えや意見を尊重して話を聞く態度を育て、学習や生活の場面で、その大切さや意義を実感できるよう指導を重ねることで、児童の学びの充実やコミュニケーション力、想像力（イメージする力）などの育成を図る。
- (3) 本校の研究主題『自分の思いを豊かに表現し、伝え合い、学び合う児童の育成』に基づく研究を推進し、授業実践を通して「大事なことを落とさず正確に聞く児童」「自分の考えをもち、適切に伝える児童」「互いの考えのよさを認め、共によりよいものをつくろうとする児童」を育成し、子どもが、自信をもって学習に取り組み、学びの喜びや楽しさを実感できるようにする。
- (4) 本校児童のよさ（生活面・学習面）を生かしながら、子どもの自主的・自治的活動を促し、活性化することにより、子どもの創造力・課題解決力などの育成を図り、自らの可能性を発見したり、成長を意識したりしながら、自信をもっていきいきと生活できるようにする。
- (5) 教科体育や食育、保健指導などの充実を図り、児童の健康や体力に対する関心を高め、目標をもって運動に取り組んだり、健康の増進に努めたりする児童を育成する。
- (6) 学校公開や情報発信による「地域の学校づくり」「開かれた学校づくり」を推進したり、家庭や地域と連携を図った取り組みを継続・発展させたりする。また、保護者との信頼関係をより確かなものとするため、連携・協力関係を強化する。
- (7) ○地域学校園において、豊郷中学校・豊郷北小学校・海道小学校との連携を深め、小中一貫教育・地域学校園を推進する。

〔豊郷地域学校園教育ビジョン〕

「豊かな郷の生き生きとした子どもたち」

〔重点課題〕

- ・分かる授業の実践や学習態度の育成、学習習慣の定着などにより学力向上を図る。
- ・すべての教育活動を通して豊かな心と社会性の育成を図る。
- ・健康や体力への意欲を高め健やかな体の育成と活力ある生活の確立を図る。
- ・家庭・地域との連携・協力を深め活気あふれる学校づくりに努める。

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】○子どもの笑顔と活気があり地域に開かれた信頼される学校

【学 習 指 導】自分の思いを豊かに表現し、伝え合い、学び合う児童の育成

【児 童 生 徒 指 導】○人権尊重を基盤とした、心豊かで思いやりがあり、他人に奉仕できる児童の育成

【健康（保健安全・食育）・体力】○健康と安全の意識を高め、何事にも元気にたくましく頑張りぬく児童の育成

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 （児童）「私は、今の学校が好きです」 肯定的回答 90%以上	地域の教育力を取り込みながら、児童の主体的な活動を推進し、児童が学校生活全体を通して、成就感や達成感を持つことができるように、一人一人に応じた支援やよさを認め伸ばす指導・支援に誠意をもって取り組む。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 93.5% 達成している。昨年度より 1.3 ポイント増。 【次年度の方針】 「ぼくたち・私たちが学級・学校を作る」取組である児童の主体的な活動を一層推進して、一人一人の成就感や達成感を高められるよう、学校全体で取り組む。
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 （児童）「先生方は、大切なことを熱心に指導してくれる」 肯定的回答 90%以上	全教職員が学校経営の理念・方針等を共通理解し、児童のよさを認め励ましながら同一歩調で協力して学習や諸活動の教育に当たる。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 99.2% 達成している。昨年度より 2.3 ポイント増。 【次年度の方針】 今後も全教職員が学校経営の理念・方針等を共通理解し、児童のよさを認め励ましながら同一歩調で協力して学習や諸活動の教育に当たる。
	A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 （児童）「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 肯定的回答 80%以上	道徳の授業の充実を図るとともに、日常生活の中で機会を捉えて<u>きまりを守ることの大切さに気づかせる。</u>	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 80.7% 達成している。昨年度より 1.1 ポイント増。 【次年度の方針】 児童の肯定的回答が 80%を上回ったことから、継続して授業と生活のきまりやマナーについて意識させていくための工夫改善を全職員で取り組んでいく。
	A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 （児童）「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 肯定的回答 90%以上	学習内容の工夫、指導法の改善、効果的な教材の使用や指導体制・指導形態の工夫を行い、より分かりやすい授業を展開し学力の向上を図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 98.1% 達成している。昨年度より 3.5 ポイント増。 【次年度の方針】 効果的な教材の活用や指導法の工夫・改善、また、指導体制・指導形態（個に応じた指導）の工夫を行い、より分かりやすい授業を展開し学力の向上を図る。
	A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 （児童）「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 肯定的回答 90%以上	全教職員共通理解の下、いじめは絶対許されないことを指導するとともに、児童の小さな変化にも心を配り、チームで問題解決に取り組む。	A	【達成状況】 児童の肯定的回答率 98.4% 達成している。昨年度より 2.1 ポイント増。 【次年度の方針】 保護者の肯定的回答の数値が低いので、ホームページ掲載している「いじめ防止基本方針」をもとに取り組んでいることを、学校便り等で積極的に公表していく。

A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 (保護者)「学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている」 肯定的回答 90%以上	・ 週案で時数管理を行うことにより、教育課程が適切に実施されるようにする。 ・ 学校行事の計画立案・検討の際に、昨年度の反省を踏まえた改善を確実に図り、適切な運営ができるようにする。	【達成状況】 保護者の肯定的回答率 95.7% 昨年より 3 ポイント減ではあるが、達成している。 【次年度の方針】 ・ 本校の児童の実態に即した教育課程を編成するとともに、各種行事等の評価・改善を行い、充実した教育活動を行う。
A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。 【数値指標】 (保護者)「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 肯定的回答 90%以上	・ 保護者や地域の方に年 3 回の授業参観や年 2 回のオープンスクール及び学校・学年行事への参加を促し、学校の様子を見てもらうとともに、学校だよりやホームページなどで各教育活動の趣旨や取り組みの様子等の情報を発信し、学校への理解を深める。	【達成状況】 保護者の肯定的回答率 96.5% 昨年より 0.6 ポイント減ではあるが、達成している。 【次年度の方針】 ・ 学校便りや学年便り、ホームページなどで学校の指導目標・重点項目・目指す児童の姿を示し、その取り組みについて積極的に情報を発信し、「開かれた学校づくり」を目指す。
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】 (保護者)「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 肯定的回答 85%以上	・ 近隣の事業所・公共施設等との連携・協力により実施する生活科の「町たんけん」や、北高・白楊高の生徒・教員等の協力を得て実施する総合的な学習の時間など、保護者や地域のボランティア等による教育活動への支援をととして地域の学校づくりを推進する。	【達成状況】 保護者の肯定的回答率 94.1% 達成している。昨年度より 0.4 ポイント増。 【次年度の方針】 ・ 地域の施設・人材を有効活用し、学校の教育活動の充実、児童の安全確保等の向上を図る。 また、様々な支援に対する感謝の気持ちを育み、挨拶や感謝の言葉の指導を行う。
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 (保護者)「学校は、荷物や備品が整理整頓されるなど、学習しやすい環境である」 肯定的回答 80%以上	・ 学年縦割り班による清掃活動や花壇の整備などの委員会活動、PTA 奉仕活動や地域協議会による校内環境整備の取組などにより、学習にふさわしい施設・設備の維持管理に努める。	【達成状況】 保護者の肯定的回答率 89.7% 十分達成している。 【次年度の方針】 ・ 引き続き P T A 奉仕活動、地域協議会、学校内の清掃活動で学習環境にふさわしい環境整備に努めていく。
B 1 教職員は、誠実に職務を遂行し、笑顔あふれる潤いのある職場づくりに努めている。 【数値指標】 (保護者)「教職員は、誠実に職務を遂行し、笑顔あふれる潤いのある職場づくりに努めている。」 肯定的回答 90%以上	・ 全教職員が、教育目標の達成に向けて誠実に職務を遂行し、児童の成長と同僚の成長をともに喜び合える笑顔あふれる潤いのある職場づくりに努める。	【達成状況】 保護者の肯定的回答率 93.8% 達成している。昨年度より 0.7 ポイント増。 【次年度の方針】 ・ 教職員の協調性、チームワークを高めながら、使命感をもって勤務実践に努める。また、児童・保護者をはじめ、来校者、地域住民に対し、笑顔で、親身になって丁寧な対応を心掛ける。

教育活動の状況	生活	A10 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 (児童)「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 肯定的回答 80%以上	・ <u>地域ぐるみのあいさつ運動を展開</u>するとともに、校内でも「あいさつ運動」を実施し、教職員が進んであいさつしたり言葉かけをしたりして、進んであいさつができるような雰囲気づくりに努める。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 91.7% 達成している。昨年度より 8.4 ポイント増 【次年度の方針】 ・ 生活向上委員会を中心とした「あいさつ運動」だけでなく、各クラス輪番制のあいさつ運動を充実させていく。
		A11 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 (児童)「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」 肯定的回答 80%以上	・ 言語環境の整備に努め、全教職員が、<u>望ましい言葉遣いや相手を思いやる言動</u>などを継続して丁寧に指導する。	A 【達成状況】 児童の肯定的回答率 81.2% 達成している。昨年度より 3.1 ポイント増。 【次年度の方針】 ・ 相手を思いやる言動と正しい言葉遣いを常日頃から指導していくとともに、地域の方（ボランティア等）への感謝の気持ちを伝える指導をしていく。
		B2 教職員は、思いやりがあり心豊かな児童を育てるための指導に熱心に取り組んでいる。 【数値指標】 (保護者)「教職員は、思いやりがあり心豊かな児童を育てるための指導に熱心に取り組んでいる」 肯定的回答 90%以上	・ 「感謝の心」の育成を重点に、相手の考えや意見を尊重して聞く態度を育て、学習や生活の場でその大切さや意義を実感できるよう指導するとともに、人権週間や読書タイムの充実を図るなど、豊かな心の育成を推進する。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答率 91.1% 達成している。昨年度より 0.7 ポイント増。 【次年度の方針】 ・ 人権週間の実施、読書の本の質を吟味し、常日頃から人権意識について児童に意識させるようにする。
	健康・体力	A12 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 (児童)児童は、休み時間や放課後などに進んで運動している 肯定的回答 80%以上	・ 「<u>とよおうサーキット</u>」を実践し、個に応じた助言を行うことにより、基礎体力の向上を図る。 ・ 学校全体でミニマム達成状況の向上を目指した指導を行う。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 90.3% 十分達成している。 【次年度の方針】 ・ 学年に応じて各運動検定や体力を養うイベントを設け、運動することを習慣化させ体力向上につなげていく。
		A13 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 (児童)「児童は、好き嫌いなく給食を食べている」 肯定的回答 80%以上	・ 日常の給食指導のほか、各教科での食育との連携を図り、給食を残らず食べようとする気持ちを育てる。また、保護者への啓発を行い、食育の充実を推進する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 80.3% 昨年より 0.8 ポイント減ではあるが、達成している。 【次年度の方針】 ・ 食への感謝の気持ちや栄養バランスを考えて、食べることの大切さを指導していく。嫌いなものでも少しだけ食べてみようという指導もしていく。
		B3 共遊の時間や縦割り活動など体を動かして遊ぶ楽しさを味わわせている。 【数値指標】 (児童)「共遊の時間や縦割り班活動などで、楽しく体を動かしている」 肯定的回答 90%以上	・ 学級で共遊の時間を設定するなど、体を動かす楽しさを味わわせる。また、縦割り集会では縦割り班で行う楽しい遊びを紹介し、体を動かして遊ぶ楽しさを体験させていく。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 94.8% 達成している。昨年度より 1.2 ポイント増。 【次年度の方針】 ・ 共遊の時間や縦割り活動などの活動場所、内容などを検討し、楽しく体を動かす活動の充実を図る。

学 習	A14 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 (児童) 児童は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している 肯定的回答 85%以上	・「できた」「わかった」という実感がもてるような学習活動を工夫する。また、子どものよさや活力を生かした授業の展開を実践する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 90.9% 昨年より 1.2 ポイント減ではあるが、達成している。 B 【次年度の方針】 ・自分の考えをもち、伝え合うことで互いの考のよさを認め合い、自信をもって学習に取り組み学びに喜びを実感させる。また、つまずきのある児童への支援も継続していく。
	A15 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 (児童) 児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している 肯定的回答 85%以上	・学習のきまりを継続して指導し、基礎基本の確実な定着に努めるとともに、集中して取り組めるような指導を工夫する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 83.6% 昨年度より 2.5 ポイント減。 B 【次年度の方針】 ・学習のきまりを継続して指導し基礎基本の確実な定着に努める。 ・落ち着いた学習環境にするために、児童指導面と関連づけ指導していく。 ・大事なことを落とさず正確に聞く指導を継続していく。
本 校 の 特 色 ・ 課 題 等	B4 地域の特色を生かした教育活動を進めるために、家庭や地域と連携したふれあい活動を積極的に推進している。 【数値指標】 (児童) 「地域の自然や特色について、地域の人たちとのふれあい活動をたくさん行っている」 肯定的回答 90%以上	地域の文化財や特色を生かした教育活動をさらに充実させるために、年間計画の見直しや事前の計画的な準備、打合せを十分に持ち、効果的な体験活動やふれ合い活動を進めて、地域を理解し親しむ児童を育てていく。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 94.3% 達成している。昨年度より 4.4 ポイント増。 B 【次年度の方針】 ・地域の文化財や特色を生かした教育活動をさらに充実させるために、地域や家庭と連携を図り、効果的な体験活動やふれ合い活動を進めて、地域を理解し親しむ児童を育てていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・多くの項目が肯定的回答（「とても思う」と「まあ思う」を合わせたもの）の数値目標を上回る高い評価だった。また児童の回答結果は、19項目中15項目で前年度の肯定的回答を上回った。
- ・A3の「きまりやマナーを守る」については、一昨年度から少しずつ増加し続け、数値目標である80%を上回った。今後、児童指導部を中心に生活のきまりやマナーについてさらに意識させていくための工夫改善を行い、全職員で取り組んでいく。
- ・A10の「あいさつ」については、昨年度の評価が低く、課題ととらえていたが、今年度は、保護者は72.3%が73.9%に、地域住民は76.9%が81.0%に、児童は83.3%が91.7%になるなど改善された。これは、生活向上委員会を中心とした「あいさつ運動」を実施したり、児童とともに教職員が進んであいさつや言葉かけをしたりして、あいさつができるような雰囲気づくりに努めてきたことが一因と考えられる。今後もあいさつの意義を再確認させ、日常お世話になっている方々などへのあいさつができるよう全教育活動を通して指導を展開していきたい。
- ・A11の「ことばづかい」については、保護者・児童ともに一昨年度から少しずつ増加し続け、児童は数値目標である80%を上回った。保護者の肯定的回答も一昨年度から増加し続けているが、今年度は75.0%と低い傾向にある。今後も相手を思いやる言動と正しい言葉遣いを常日頃から指導していくとともに、地域の方（ボランティア等）への感謝の気持ちを伝える指導を重ねていきたい。

6 学校関係者評価

- ・質問5の「学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる。」の肯定的回答率について、教職員は100%、児童は94.6%から98.4%に上がっている。先生たちは自信を持って指導しており、成果が上がっている。一方、保護者は62.1%から59.2%に下がっている。熱心にやっているのに伝わらないのはもったいない。学校の取組を保護者に伝えるため、発信する場や方法を考えていく必要がある。いじめへの対応をどのようにしているのか、先生がどのような研修を行っているのかなどを発信するとよい。

- ・ 質問 13 の「生徒は好き嫌いなく給食を食べている」の肯定的回答率について、保護者は 72.6% でかなり低い。学校でどのような給食を食べているか、どのように食べているか知っていただくなど、給食に接するきっかけがあれば、理解が深まるだろう。
- ・ 保護者に対して、分かりやすく情報を発信する必要がある。ホームページをまめに更新するなどして、学校の取組を見てもらえるような条件整備をしていくとよい。
- ・ 学校マネジメントのアンケートでは、保護者と児童が同じ数値になることが理想だと思う。そのためには、具体的に分かるよう情報を発信してほしい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・ 次年度も引き続き、「子どもの笑顔と活気があり地域に開かれた信頼される学校」をめざし、学習がよく分かる喜び、自分の役割が分かり居場所のある喜び、友達や先生と心が通い合う喜びを味わわせることができるよう、教職員の共通理解のもと、全教育活動の見直しと改善を図る。
- ・ 「感謝の心」の育成を核とした、『豊かな心の教育』や『人権教育』の推進、自己肯定感や規範意識を高める取組の推進、子どもの主体性や創造性を発揮する活動の推進などにより、子ども一人一人が安心して楽しく学校生活ができる雰囲気や環境、いじめのない学校づくりに全教職員で努力するとともに、いじめの実情公表に努める。
- ・ 保護者との信頼関係をより確かなものとし、連携・協力関係を強化するため、ホームページでの情報発信を充実させるなど、学校の取組をより分かりやすく伝えるための方法・内容の改善を図る。
- ・ 日常生活の中で、授業と生活のきまりやマナーについて意識させていくための工夫・改善と、望ましい言葉づかいや相手を思いやる言動などについて全校体制での指導に力を入れ、ルールを守るという意識をより育む。
- ・ 学校園のあいさつ運動をはじめ、児童会による校内あいさつ運動などをとおして、あいさつのできる児童を育てていく。また日頃から相手に聞こえる声の大きさであいさつできるように励まし、声かけをしていく。
- ・ 教職員は児童の言葉遣いについてその都度指導してきているが、地域の方（ボランティア等）への感謝の気持ちを伝える指導を保護者と連携しながら充実させるなど、さらに相手を意識した言葉遣いができるよう取り組んでいく。